



# 隈府小だより

学校教育目標 「自ら考え なかまと高め合う 隅府小」

隈府小学校  
学校だより No25  
文責 芹川博文  
11月7日(金)

時代を超え 感性を育む読書  
～ 新書 150 冊のうち 141 冊は貸し出し中 ～

「10月中旬に新書が入りましたが、今、図書室にあるのはこれだけです。」と、図書司書の末永先生。新書150冊のうち、141冊の新書は貸し出し中、9冊のみが並んでいました（写真右）。

昨年度中学校に勤務した私は、中学生にとって年間100冊以上読書する大変さを痛感しました。しかし、末永先生によれば、昨年度の貸し出しは5万冊越え。「この10月だけでも6,000冊を越えました。」とのこと。改めて小学生（隈府小？）の本に対する親しみの深さを感じました。

動画に映し出される鮮明な映像はなくとも、無限に想像が広がる本の世界。絵本にしても、動かないからこそ想像できる奥深さ。時代はどんどんデジタル化が進んでも、時代を超えて子どもたちの感性を育む読書の奥深さを感じます。

更に、「図書委員の子たちが選んだ本が届きました。」と、見せていただいたのは、保護者の皆様や地域の皆様が買い物レシートを物産館などの「学校ポスト」に入れていただいたおかげで購入した8冊の本（写真右下）。ジブリの本をはじめ、鬼滅の刃、呪術廻戦、ドラえもん、怖い話など、子どもたちが好きそうなものばかり。こちらも今月中には貸出可能になるとのことでした。

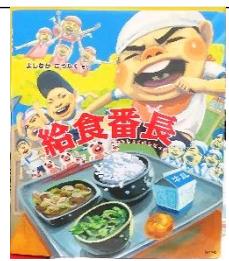
秋の夜長、ご家族で読書のひと時はいかがでしょうか。

おススメの1冊 「カフネ」 阿部 晓子 著

2025年の本屋大賞。既に読まれた方もおられるかもしれません。朝日新聞書評で「雨に濡れた人への、傘のような一冊」と評されたとのこと。家族や親子、人との絆について考えさせられ、私の場合、読んだ後に料理と掃除がしたくなりました。隈府小新書150冊の中の1冊でもあります。



作ってくださる方の思いを大切に いただく  
～ 読書月間にちなんだ特別メニュー登場 ～



「読書間に合わせて作りました。」という森本 栄養教諭の言葉のとおり、11月6日（木）の給食は、絵本「給食番長」から飛び出したメニュー、“給食番長カレー”、ひじきサラダでした。カレーは子どもたちの人気メニュー。1年生の教室でも、次々とお代わりをしていました。

絵本「給食番長」にも出てくるように、作ってくださった方の思いを知ることで食に対する気持ちが変わります。食は、体や命と直結します。子どもたちの食に対する興味や感受性、そして感謝の気持ちも高まってほしいと願います。

